

一人ひとりのニーズに応じた支援をめざして

一口蓋化構音のある子どもの指導と支援

1. 設定理由

口蓋化構音を主訴とするA児との出会い。笑顔でコミュニケーションでき、話すことで困っていることはないという。この時、ことばの教室担当者として感じた違和感は、困ったことがあった時、にこにこ笑ってその場をやり過ごそうとするA児の自信のなさや、問題と正対することをさげよとする態度につながるのではないか。

将来を考えたとき、A児が自己理解を深め、自分に自信をもって成長することができるように、かかわる周囲の人がA児の実態を共有し支援について話し合い連携して対応する必要性を感じた。全体の発達の見通しを共有しながら、ことばの教室担当として口蓋化構音の改善をしていこうと考えた。

2. 研究仮説

(1) ことばの教室担当者と保護者、在籍学校の先生方等とが、A児の実態について共通理解し、日々の学習等の様子について知り合うなどして連携することで、発音が改善すると共に、生活や学習に自信を持って取り組めるようになるだろう。

(2) A児の実態を的確に把握し、スモールステップで舌や口の周りの練習、発音練習、聞き分け練習に取り組めば、発音の改善が進むだろう。

3. 研究の内容

(1) 保護者・在籍学校の先生方等との連携による指導・支援

(2) 口蓋化構音の改善のための実態把握と指導・支援

4. 結 論

○A児の保護者や在籍学校の先生方等と連携することで、A児の実態や必要な指導や支援について共通理解することができた。A児に合った学習形態や課題を設定することができ、A児の意欲向上につながった。

○A児の実態を的確に把握することに努め、指導をスモールステップで進めたことにより、口蓋化していた音の1つが簡単な単語で発音できるようになった。